



● 城東地区 ●  
 1957 世帯  
 男 1835 人  
 女 1976 人  
 合計 3811 人  
 H 28.1.1 現在

# 11月12日 城東地区に 「城東地区まちづくり協議会」 が発足しました。



## 松本市の地域づくり

### ○地域づくりとは？

松本市では、安心して生きいきと暮らせる住みよい地域社会を構築するため、住民が主体となって地域課題を解決して行く活動や取組みのことを地域づくりとしています。そして、地区住民のこの取組みを支援して行く拠点として、平成26年4月に、市内35地区に「地域づくりセンター」

### ○なぜ、今地域づくり？

超少子高齢型人口減少社会は、今後さらに進行していく中、地域課題は増大し、かつ複雑化していきます。この地域課題は地域だけでも行政だけでも解決が困難となっていくきます。そこで、「新たな地域づくりの仕組みの構築」や「将来を見据えた人材育成等の取組み」が必要となってきました。

### ○緩やかな協議体の設置

この地域づくりの取組みを進めていくために、地区の住民同士が自由に意見交換をし、地区の意思決定を図る場として、緩やかな協議体の組織化を進めています。

この緩やかな協議体は、地区の状況に応じ、町会等を核に既存の自治の仕組みを最大限に活用して地区独自の組織構成により設置をするものと

しています。

## 城東地区のまちづくり

### ○城東地区の現状

城東地区にも少子高齢化の進行による影響が様々な問題を生み出しており、近年開催された「城東地区市政ましかどトーク」でも「昼間の見守り体制の脆弱化」「空き家空き地の増加」や「都会への若者流出による町会等の担い手不足」などと言った課題が挙がっています。

また、「町会未加入世帯の増加」など、地域力の低下に繋がるのではないかとこの課題も挙がっています。

こうした問題による、町会間の格差も生まれてきているといった現状などを踏まえて、将来に向かって地区住民の皆さんから広く意見を伺い、提案された課題について協議し、解決への方針などを決定する場が必要となってきました。

### ○まちづくり協議会の設置

そこで、町会長会を中心に地区内の各団体の代表者をメンバーとして、平成26年12月に準備委員会を設け、緩やかな協議体の設置等について検討を始めました。

この準備委員会の中で、これまでに見えてきた問題を地域課題と捉え、解決に繋げて

いくため、地区内の既存の組織が横の繋がりをもって、自由に協議できる「緩やかな協議体」の設置が必要であると意見をまとめました。

以後、計10回ほど準備委員会を開催した中で、名称、設置目標、予算などを含め、その方向性や、あり方などの検討を重ねてきました。

そして11月12日に設立総会を開催し、城東地区まちづくり協議会が発足しました。

### 「災害に強いまちづくり」を

城東地区まちづくり協議会 会長 麻田 晃  
 このたび、協議会会長に就任いたしました。麻田でございます。城東地区まちづくり協議会は、設置目標に「災害に強いまちづくり」を掲げています。

- そしてこの目標を支える三つの柱を
- 1・災害に強い住民の絆づくり
  - 2・災害に強い防災の体制づくり
  - 3・災害に強い地域の環境づくりと、しました。

この三つの柱を核として、今後住民の皆さんからも地域課題に関するご意見やご提案相談などを頂きながら、様々な協議を重ねていきます。そ

して更に住民の皆さんが繋がりを持ってやるような事業を展開していくことで、地域力のアップを図っていきます。

結果的に、城東地区がどんな災害が来ても乗り越えられる、災害に強い地区となっていくことに繋がっていきます。災害だけではなく、これから更に進行が懸念されている超少子高齢型人口減少社会をも乗り越えられる地域力を持つことも可能となってくると思っております。

また、地域づくりセンターを中心とした、市や他の行政関連機関にもバックアップしていただき、城東地区の地域づくりを協働して進めてまいりたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

### 平成27年度 役員体制

(城東地区まちづくり協議会規約 第5条) (敬称：略)

役職	氏名	備考
会長	麻田 晃	町会連合会会長
副会長	中村 順一	福祉ひろば事業推進協議会会長
	佐藤 昭明	町内公民館長会長
	坂井 勉	民生児童委員協議会会長
会計	田嶋 憲二	町会連合会会計
監事	三村 忠	町会連合会監事
	岩淵 英雄	町会連合会監事
事務局長	布山 智子	地域づくりセンター長

### 災害に備えよう

#### 神奈川県総合防災センターに学ぶ

町内公民館長会では、本年度設立された城東地区まちづくり協議会の目標「災害に強いまちづくり」にあわせ、今回は、神奈川県総合防災センターに研修に行きました。センターは、県の災害拠点と消防学校に併設された、充実した内容の併設型防災体験館です。

研修に先立ち館内案内VTRを見てから、スタートしました。



館内案内を視聴

#### 〈地震体験コーナー〉

阪神淡路大震災、関東大震災、神奈川県西部地震を想定した揺れを体験しました。また、揺れの後に大きな余震が来たり、対応が遅れると揺れで勝手口ドアが開かなくなるなどの演出があり、大変貴重な体験ができました。

#### 〈風水害体験コーナー〉

このコーナーでは、風速30mの強風体験をしました。30mの強風の中ではほとんど立つことも大変で、参加した公民館長さんのポケットに入っていた、眼鏡が風で飛んでしまうというハプニングがあるぐらいの強い風でした。



風水害体験コーナーにて

#### 〈消火体験コーナー〉

ここでは消火器の使い方、説明を聞き、画面に映しだされた火災に向かって水消火器を放射。水をうまく当てれば火は消え、最後に「消火」の文字がでました。

#### 〈煙避難体験コーナー〉

建物内の見取り図を見ながら説明を聞き、デパート四階での火災を想定し、煙の充満した中に入り、手探りで出口を探したがなかなか見つからず、あらためて煙の恐ろしさ

を思い知りました。また、ドアノブが熱い所は中が火災であるとか、始めに避難路の確認が大事であると教えられました。

#### 〈防災シアター〉

防災シアターでは防災の大切さがよく分かる映像が約20分間流れました。模型とはいえ津波で町が流されるシーンでは大変不安を感じました。

また館内には、消防用具発達の歴史、防災Q&A、家庭防災の知恵、防災用品、通報体験、地震と建物の揺れ方などのコーナーがありました。



消防用具の歴史を学ぶ

公民館長会では2年連続で防災について研修をしました。防災とは、まず自分の安全を確保しなければ何もできず、2014年の長野神城断層地震では住民同士の助け合いにより奇跡的に一人の死者も出なかったように、地元住民の強い絆と助け合いの精神が防災には欠かせない事を研修を通して学びました。

### 手洗いをしっかりやればノロ予防

近年、ノロウイルス感染症による発病が、全国的に多く報道されています。長野県の食中毒のデータにおいても、年々ノロウイルスの割合が増えている状況であり、市民の関心も高まっています。

昨年12月11日、城東公民館にて「ノロウイルス等の感染症予防講座」を開きました。講師は、城東地区にお住まいの獣医師の田中清司氏(食と生活の科学研究所長)です。最初に獣医師であるので動物の体温、血圧と睡眠についての大変興味深い話をされたから、本題に進みました。



当日の講座の様

◎自分でできる健康チェック  
体温、血圧と睡眠の平常値を知っておくことが大切です。  
◎ノロウイルスの特徴

- ①糞便が直接、間接的に口に入り感染する
- ②健康保菌者が多くいる。腸内に10億〜100億個あっても発症しない人がいて、知らずに人に感染する
- ③少量で感染する。10個から100個程度で感染し、腸管内で爆発的に増やす
- ④非常に小さい。1ミリの手指のしわに3万個入り、手指に付着すると落ちにくい。嘔吐物と一緒に舞い上がり埃に含まれて飛散する
- ⑤人の腸内のみで増え、食品内では増えない
- ⑥寒いほど長生きするので冬に流行する

◎ノロウイルスは新型がほとんど生まれるので薬では対応できず特効薬はない。

◎トイレの衛生管理と手洗いが極めて重要。用後は石けんで爪の先まで2度洗いし約30秒以上しっかり洗う。

講座最後に参加者全員が、手洗いの実践を行い、ほとんどの人が不合格でした。



手洗いの大切さに関する説明